

第2回 防災イベント報告

災害時のトイレについて



2月2日（日）、防災への知識や対策を深めていただくため、「防災イベント」を行いました。第1部はトイレの話、第2部は備蓄品の話です。参加者は、防災委員含め44名。みなさまに「たいへん良かった」と、喜ばれました。第1部は島田市にある浄化槽の維持管理等を行う「㈱富永事業」さまから話を聞きました。

発災後には停電や断水でトイレが使えないこと、阪神大震災では避難所のトイレ環境は劣悪でその後もトイレ問題は繰り返されていること、素掘りトイレは時間の経過に伴い悪臭で酷かったこと、能登半島地震では仮設トイレが一週間たっても約4割が届かなかったこと等をお聞きしました。いま、できるときに各自で準備をすすめてみましょうと結ばれ、処理剤、簡易トイレなど紹介いただきました。



処理剤ってこんな風です、固まるんです

処理袋による臭いモレの違いはどうか？



ガンガン



その簡易トイレの座りごちどうですか？

もう少し高さがあるといいねえ

トイレ関係を優先して準備しておきましょう

処理剤はかならず用意！

処理剤で重視したいのは、

- ①消臭
- ②凝固力とその持続性

トイレ事業を担っている島田市の会社で実際に試し、イチ押しされた商品です。



BOS 非常用トイレセット

(参考) 5回分 864円/50回分 4,400円

備蓄品を見直そう

防災イベント第2部は生活班メンバーのひとり、松野さんのご家庭の備蓄品を紹介していただきました。



食料品や水の他に、ペットのための備蓄品、避難用持ち出し袋の中身等、用途に応じたわかりやすい説明でした。また、災害時に役立つ便利な物を簡単に作る方法も紹介されました。

参加者の皆様からの声

アンケート結果、「とても良かった」トイレ 85%、備蓄品 80%、
「良かった」トイレ 15%、備蓄品 20% と高評価をいただきました。

トイレ

- いろいろな簡易トイレの座り心地が体験でき、選ぶ参考になった。
- 「凝固剤の実験」を通して使い方や必要性がわかった。
- 災害時にはトイレが一番大事なことを再認識させられた。
- 報道ではあまりやらない災害時のトイレ状況を知ることができた。
- 改めて携帯トイレの必要性、自助の大切さを痛感した。
- スペシャリストの方の説明が理解しやすかった。

備蓄品

- 「何を備蓄したらよいのか」がとてもよくわかり参考になった。
- ペットボトルに小さな穴を開けると手洗い用の水として使えることを知った。
- 備蓄品の選定基準だったり、アイデアが聞いて良かった。少しずつでも揃えていきたい。
- 目の前で身近な人による現物を見ての説明がたいへん良かった。
- すぐそこまで災害が迫ってきている今、早急に始めなければと感じました。

全体を通じて「もっと大勢の住民に聞いて欲しい」、「トイレ、備蓄品それぞれ単独でもっと時間をとってやってほしい」という声が多くきかれました。来年度のイベント計画に反映させていきたいと思えます。